

学部等名	大学院デザイン研究科デザイン専攻
------	------------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
大学院デザイン研究科は、大学全体の理念に基づき、実社会におけるさまざまな課題解決に対して、最新の AI/DX スキルを駆使した豊かなデザイン発想力と、造形力による提案を発信できる人材の育成を目指しています。また社会が求めるニーズをいち早く探り、将来的なデザイン実装を可能にするなど末長く活躍できる次代の人材輩出を目標にしています。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
大学院デザイン研究科では、社会で通用するコミュニケーション能力と、計画を遂行するためのマネジメント力、分析評価能力を駆使した企画力、さらには問題解決力を培う研究指導を目指しています。最近では近隣大田区地域との密な連携を通じて共同研究を重ね、地域社会や産業界の課題解決に貢献できる人材の育成に寄与しています。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
大学院デザイン研究科では、全ての開講科目に対して授業概要、到達目標から授業方法などを明確にした授業用プラットフォームとなる Moodle を使用して資料を共有しています。またシラバス、適宜開催されるガイダンス等を通じて大学院生・教職員に周知を徹底しています。特に地域との連携を重視した教育研究方針は、授業や日々の実習を通じて共有され、大学院における学内の理解促進に効果を発揮しています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

大学院デザイン研究科では教育研究の質を継続的に維持、改善するため、大学院担当資格の審査を任期 5 年以内で実施しています。審査の結果は研究科委員会（教授会）を開催し共有、教育目標やカリキュラムの達成状況を含めて定期的に自己点検・評価しています。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

所属する大学院生は前期 2 回、後期 2 回の研究発表会により、その評価と結果は教員と院生に共有され、加えて大学院指導関係者の意見に加え、担当者以外の所見も反映しながら大学院における教育改善に活用されています。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

IR センターのデータにより、大学院生の学修成果や履修状況を収集・分析しています。また担当する大学院生の履修状況は指導担当の教員（主・副担当）が常に確認できる体制であり、これにより研究指導の改善や学修支援の充実を図るとともに、自己点検・評価の根拠資料として活用しています。大学院では教育研究の質保証に資する体制を十分に整えています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

大学院デザイン研究科では、教育研究の質的向上を常なる目的として、学生および学外関係者からの意見・要望を体系的に収集・分析を行っています。また地域連携科目においては新たに共同研究の授業実施報告書を作成しており、その報告書は大学院における教育研究活動の改善に反映させる役割を担っています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ア

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

大学院デザイン研究科では 2025 年度より（公益財団法人）大田区産業振興協会からの委託による授業への助成金をいただき、主に大田区内にある企業とのデザインによる共同研究を開始しました。初年度となる 2025 年度は区内の企業 4 社の参画、関係部署などとの協働により、授業開講期間で 4 回ほど進捗を発表、並行して大田区産業振興協会の主催による「Meet New Solution 2025 in TIB」において、院生の研究成果を発表しました。会場では多くの出展企業ならびに関係者から、今回の取り組みに対して評価を得ることができました。また会の終了後も、修了研究の取り組みに対するアドバイス、制作補助、知見収集などの機会を得ることができました。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

大学院デザイン研究科では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーを策定し、Moodle やシラバス、学生ポータル等を通じて学生・教職員に周知しています。これらのポリシーは、教育課程の設計や学修成果の評価、入学者選抜の受け入れ方針に反映され、教育の質保証と継続的な改善に活用されています。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

カリキュラム・ポリシーに基づき、実学の教育と研究を重視し、持続可能な社会の構築に貢献し、科学技術等の発展を先導するための基礎から応用まで体系的に学べる教育課程を編成しています。さらに講義・演習・実習・試作を含む制作を組み合わせた実践的な研究を通じて、専門知識と課題解決能力を段階的に育成し、問題解決力により社会で活躍できる技術者の育成を目指しています。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

先進性があるデジタルスキル実装を目指して具現化し、説明能力、研究能力のある学修成果の評価方法として大学院生に示し、明確な単位認定基準や進級基準、修了要件を定めています。これらは学生便覧やシラバス等で事前に周知され、成績評価や要件に対して厳格に適用されています。また学修成果の可視化により教育の質保証に資する体制が整備されています。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

効果的なアクティブラーニングのために、デザイン研究科では徹底した少人数教育を実践しています。その一環として、個々の研究テーマの仮説を立てるにあたって複数によるディスカッションを導入しており、また社会連携の視点から実現可能な提案を画策するシミュレーションの演習「デザインクリエイション」など、実践的なケーススタディなどを導入して大学院生の主体的な知見収集を促進しています。これにより、高い論理的思考力や問題解決能力を備え、豊かな発想力と造形力により実社会で即戦力となる人材育成に寄与しています。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

講義・演習・実習・試作を含む制作を通じて学修成果を多面的に評価しています。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、定期試験やレポート、小テスト、発表等を組み合わせて厳格に判

定しています。また、卒業研究では複数教員による審査を行い、総合的な能力を評価しています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

デザイン研究科では教員の審査に関して、魅力ある人柄、研究業績、教育能力、大学院運営への貢献実績などを基準とした明確な規程があります。これらの基準は規程集に明記され、学内で共有・運用されています。資格審査は研究科委員会（教授会）での審議を経て実施され、公正かつ厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

大学、学部 FD 方針に基づき、授業改善や教育の質向上を目的とした活動を継続的に実施しています。活動内容は研究科内で共有され、教育研究の改善に活用されています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

教員の教育・研究活動に対し、大学と方針に基づき、授業評価アンケートや研究業績の自己点検・評価を通じて成果を把握しています。これらの結果は FD 活動や人事評価に反映され、教育の質向上や研究力強化に活用されています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部（大学院）が個性・特色として重視している領域について記載してください。
多岐にわたるデザインの分野から複数教員による主・副担当指導により、多様で複雑な社会問題に対して広い専門性からアプローチが可能な研究テーマを立てられる特徴があります。高いレベルを目指す大学院生は、独創的な発想で実社会の問題解決につながるデザイン提案を、2年間で養うことが可能になります。最近では AI/DX に代表される、デジタルテクノロジーを駆使した独自性の高いデザイン表現をベースに、将来的な実装を見据えた創造性の高いデザインの開発を行えることも特徴に加わりました。次に他大学の大学院と大きく異なる点として、論文の執筆と仮説証明のための作品制作を同時に課しており、結果として持続可能な社会の構築に貢献する人材を育成することにも繋がりました。他にもプレゼンテーションやデザインの発想による問題解決など、多様な研究発表能力を身に付けられることが強みです。

5-2. 他大学（大学院）との違いを示す取り組みがあれば記載してください。
大学院デザイン研究科では、2019年に設置以来、修士論文の作成に日本語と英文の要約を課し、また論文の仮説を証明するとして作品の制作を求めています。これは研究論文で論じられる提案を一般化して示すものであり、他大学の大学院研究科にはない特徴と言えます。また積極的に学内外での研究発表を推奨しており、申請内容に応じて必要経費を支給するなど、支援の体制を整えております。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。